



2027年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2026年8月14日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社インバウンドテック

コード番号 7031 URL <https://www.inboundtech.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 下大蘭 豊

問合せ先責任者 (役職名) 取締役CFO 専務執行役員 管理本部長 (氏名) 金子 将之 TEL 03-6274-8400

配当支払開始予定日 —

決算補足説明資料作成の有無：無

決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2027年3月期第1四半期の連結業績（2026年4月1日～2026年6月30日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2027年3月期第1四半期	706	35.3	33	—	32	—	21	—
2026年3月期第1四半期	522	△19.5	△60	—	△82	—	△92	—

(注) 包括利益 2027年3月期第1四半期 22百万円 (—%) 2026年3月期第1四半期 △89百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2027年3月期第1四半期	8.88	8.72
2026年3月期第1四半期	△38.89	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2027年3月期第1四半期	6,636	3,999	24.8
2026年3月期	2,553	1,720	53.8

(参考) 自己資本 2027年3月期第1四半期 1,645百万円 2026年3月期 1,373百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2026年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2027年3月期	—	—	—	—	—
2027年3月期（予想）	—	0.00	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2027年3月期の連結業績予想（2026年4月1日～2027年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高	
	百万円	%
通期	6,300	195.3

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更：有

新規 4社 (社名) 株式会社FWIほか3社

(注) 詳細は、添付資料P. 7「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(連結範囲の重要な変更)」をご覧ください。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無

② ①以外の会計方針の変更：無

③ 会計上の見積りの変更：無

④ 修正再表示：無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2027年3月期1Q	2,792,491株	2026年3月期	2,523,475株
② 期末自己株式数	2027年3月期1Q	一株	2026年3月期	136,300株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2027年3月期1Q	2,448,196株	2026年3月期1Q	2,384,017株

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー：無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信(添付資料)3ページ「(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
四半期連結損益計算書	5
四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(連結範囲の重要な変更)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	7
(企業結合等関係)	7
(セグメント情報等の注記)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間における当社グループを取り巻く事業環境は、マルチリンガルCRM事業における日本語案件につきましては、民間企業から受託する案件数は安定的な増加が続いております。案件単位の売上・利益の額が大きい官公庁等の入札業務については、競合の参入増や係る人件費の高騰などから厳しい外部環境であります。前期末からの受注残の消化に加え、第2四半期以降開始となる案件についても計画に近い形で獲得が進んでおります。一方、多言語分野に係る業務の受注及び入電数については、インバウンド需要増に伴い順調に増加傾向が続いており、今後も安定した成長が見込まれる状況です。

セールスアウトソーシング事業においては、主力業務であります訪問による東京電力グループの顧客向け営業業務が計画に近い形で進捗しました。また、前期に取得したモバイルプロモーション関連事業について、活動スタッフが緩やかに増加しており、今後新たなセグメントの柱となるよう注力しておりますが、本案件のみならず、セグメントにおける案件パイプラインの拡大を模索しております。

また、当社において2026年6月9日付適時開示「簡易株式交付による株式会社FWの子会社化の結果に関するお知らせ」によるお知らせ通り、幅広い分野の一括見積・資料請求サイト運営による情報提供サービスを展開する株式会社ウェブクルーの完全親会社である株式会社FWを同日付にて完全子会社化いたしました。これにより、今後は同社とのシナジーを推進し、グループの収益拡大を目指してまいります。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は706,172千円（前年同期比35.3%増）、営業利益は33,906千円（前年同期 営業損失60,117千円）、経常利益は32,013千円（前年同期 経常損失82,757千円）、親会社株主に帰属する四半期純利益は21,734千円（前年同期 親会社株主に帰属する四半期純損失92,714千円）となりました。

	前第1四半期連結 累計期間（千円）	当第1四半期連結 累計期間（千円）
売上高	522,002	706,172
営業利益又は営業損失（△）	△60,117	33,906
経常利益又は経常損失（△）	△82,757	32,013
親会社株主に帰属する 四半期純利益又は 親会社株主に帰属する 四半期純損失（△）	△92,714	21,734

セグメント別の状況は以下のとおりであります。また、各事業分野のセグメント利益は、全社管理部門費用107,096千円を含まない額であります。

・マルチリンガルCRM事業の概況

マルチリンガルCRM事業におきましては、日本語を含む13言語を活用し、外国人と日本人のコミュニケーション問題を解決する多言語・通訳ソリューションを24時間365日体制で提供しております。

当セグメントにおける主要サービスである多言語によるサポートニーズですが、訪日外国人観光客の増加に伴い、当第1四半期連結累計期間については、入電数や新規案件の引き合い増など、インバウンド関連は右肩上がりの状況が続いております。しかしながら、売上・利益の額が大きい日本語案件と比較すると、規模はまだ成長途上であるため、今後も営業活動を継続して案件の増加に取り組んでまいります。

また、案件単位の売上・利益の額が大きい官公庁等の入札業務については、アライアンスパートナーである株式会社日本旅行との連携による、公務・地域事業の共同推進において両社の強みを生かした獲得が進んでおり、今後も同社とのアライアンス拡大に注力し、強固なパートナーシップを目指してまいります。当社単独での入札案件については、前期末からの受注残の消化に加え、第2四半期以降開始となる案件についても計画に近い形で獲得が進んでおります。民間企業からの日本語案件につきましては、現在注力している通販のカスタマーサポートに加え、BizTAP AIのライセンス販売及びAI関連業務の開発受託など、新たな収益源が立ち上がっており、今後も更なる事業拡大に注力してまいります。

以上の結果、マルチリンガルCRM事業全体では、売上高は623,915千円（前年同期比67.7%増）、セグメント利益は117,706千円（同582.6%増）となりました。

	前第1四半期連結 累計期間(千円)	当第1四半期連結 累計期間(千円)
売上高	372,039	623,915
セグメント利益	17,242	117,706

・セールスアウトソーシング事業の概況

セールスアウトソーシング事業では、主に当社がクライアント企業に代わって見込みユーザーに対してインサイドセールス等を行っております。当第1四半期連結累計期間については、主力業務であります訪問による東京電力グループの顧客向け営業業務が計画に近い形で進捗しました。また、前期に取得したモバイルプロモーション関連事業について、活動スタッフが緩やかに増加しており、今後新たなセグメントの柱となるよう注力しておりますが、前期中に終了となった案件の代替までには至っておらず、新たな案件の立ち上げにも時間を要していることなどから前年同期との比較において、減収減益となっております。

以上の結果、セールスアウトソーシング事業全体では、売上高は90,176千円（前年同期比42.9%減）、セグメント利益は23,296千円（同20.5%減）となりました。

	前第1四半期連結 累計期間(千円)	当第1四半期連結 累計期間(千円)
売上高	157,810	90,176
セグメント利益	29,317	23,296

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第1四半期連結会計期間末における総資産は、6,636,020千円となり、前連結会計年度末から4,082,469千円増加いたしました。主な要因としては、新たな分野への事業参入による事業拡大を目的とした株式会社FWの株式取得に伴い、新たに連結対象となることとなったため、のれんが計上されたことが挙げられます。

(負債)

負債につきましては、2,636,232千円となり、前連結会計年度末から1,803,500千円増加いたしました。主な要因としては、株式会社FWの株式取得に伴い、同社の1年内返済予定の長期借入金、長期借入金及びその他負債などが増加したことによるものであります。

(純資産)

純資産につきましては、3,999,787千円となり、前連結会計年度末から2,278,969千円増加いたしました。主な要因としては、株式会社FWの株式取得に伴う非支配株主持分の増加及び、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上に伴う利益剰余金の増加などによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2027年3月期の業績につきましては、2026年5月14日に公表いたしました業績予想に変更はありません。現時点では株式会社FWの株式取得において発生する損益への影響額の精査が完了していないことから、売上高のみ業績予想を開示しております。今後、業績予想の修正の必要性が生じた場合は速やかに開示いたします。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2026年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2026年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,336,376	1,590,806
売掛金	414,266	1,041,140
その他	86,192	130,955
貸倒引当金	△15,499	△20,680
流動資産合計	1,821,336	2,742,222
固定資産		
有形固定資産	115,357	155,799
無形固定資産		
のれん	93,124	3,087,509
顧客関連資産	235,750	225,500
その他	95,990	150,021
無形固定資産合計	424,865	3,463,031
投資その他の資産	191,991	274,967
固定資産合計	732,214	3,893,798
資産合計	2,553,550	6,636,020
負債の部		
流動負債		
買掛金	81,150	121,780
短期借入金	400,000	400,000
1年内返済予定の長期借入金	108,000	511,000
未払法人税等	8,034	55,764
賞与引当金	—	5,840
その他	196,738	720,376
流動負債合計	793,924	1,814,761
固定負債		
長期借入金	—	658,500
その他	38,808	162,970
固定負債合計	38,808	821,470
負債合計	832,732	2,636,232
純資産の部		
株主資本		
資本金	554,037	636,285
資本剰余金	542,462	587,446
利益剰余金	400,024	421,758
自己株式	△123,132	—
株主資本合計	1,373,392	1,645,490
新株予約権	21,336	21,336
非支配株主持分	326,089	2,332,960
純資産合計	1,720,818	3,999,787
負債純資産合計	2,553,550	6,636,020

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2026年4月1日 至 2026年6月30日)
売上高	522,002	706,172
売上原価	458,231	558,370
売上総利益	63,771	147,802
販売費及び一般管理費	123,888	113,896
営業利益又は営業損失(△)	△60,117	33,906
営業外収益		
受取手数料	—	30
受取利息	—	45
還付加算金	9	—
その他	24	0
営業外収益合計	34	75
営業外費用		
支払利息	1,932	1,968
支払手数料	343	—
事務所移転費用	20,383	—
その他	13	—
営業外費用合計	22,673	1,968
経常利益又は経常損失(△)	△82,757	32,013
特別損失		
固定資産除却損	2,774	—
特別損失合計	2,774	—
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△85,531	32,013
法人税、住民税及び事業税	2,139	9,423
法人税等調整額	1,938	△80
法人税等合計	4,077	9,342
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△89,609	22,670
非支配株主に帰属する四半期純利益	3,105	936
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△92,714	21,734

(四半期連結包括利益計算書)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2026年4月1日 至 2026年6月30日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△89,609	22,670
四半期包括利益	△89,609	22,670
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△92,714	21,734
非支配株主に係る四半期包括利益	3,105	936

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(連結範囲の重要な変更)

当第1四半期連結会計期間より、株式会社FW及びその100%子会社である株式会社ウェブクルー並びに同社の100%子会社である株式会社WCS、株式会社Bangを連結の範囲に含めております。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は株式会社FWの取得に伴い、株式交付による新株発行を行い、同社ほか3社を連結の範囲に含めました。この結果、当第1四半期連結累計期間において資本金が82,247千円、資本準備金が82,247千円増加し、その他資本剰余金が37,263千円減少し、当第1四半期連結会計期間末において資本金が636,285千円、資本剰余金が587,446千円となっております。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

※ 当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費（のれん及び顧客関連資産を除く無形固定資産に係る償却費を含む。）、のれんの償却額及び顧客関連資産償却額は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2026年4月1日 至 2026年6月30日)
減価償却費	11,559千円	14,391千円
のれんの償却額	4,998	3,799
顧客関連資産償却額	10,249	10,249

(企業結合等関係)

(取得による企業結合)

当社は、2026年5月13日開催の取締役会において、当社を株式交付親会社とし、株式会社FWを株式交付子会社とする株式交付（以下、「本株式交付」といいます。）を実施することを決議いたしました。当該決議に基づき同日付で本株式交付契約を締結し、2026年6月9日付で本株式交付の効力が発生し、株式会社FWの全ての株式を取得いたしました。また、本株式交付の実施により、株式会社FWの完全子会社である特化型サイトの運営を行う株式会社ウェブクルー及び同社の完全子会社である株式会社WCS、株式会社Bangも同時に当社の子会社等となります。

1. 企業結合の概要

(1) 被取得企業の名称

株式会社FW

(2) 取得した事業の内容

支配会社である株式会社ウェブクルー（一括見積・資料請求サイトの運営による情報提供サービス事業）の経営支援、指導、監督

(3) 企業結合を行った主な理由

当社グループとして新たな分野への参入及び、株式会社FW及び株式会社ウェブクルーのシステム開発力を生かし、当社の今後拡大領域と考えるAI部門の強化による業績拡大などが期待できると判断したことによるものです。

(4) 企業結合日

2026年6月9日

(5) 企業結合の法的形式

当社を株式交付親会社、株式会社FWを株式交付子会社とする簡易株式交付

(6) 結合後企業の名称

変更ありません。

(7) 取得する議決権比率

企業結合前に所有していた議決権比率 —%

取得後の議決権比率 100.0%

(8) 取得企業を決定するに至った主な根拠

株式交付により、当社が株式会社FWの議決権の100.0%を取得し、子会社化したことによるものです。

2. 四半期連結累計期間に係る四半期連結損益計算書に含まれる被取得企業の業績の期間

2026年6月9日が株式取得日であり、かつ、当社と被取得企業との四半期連結決算日との差異が3か月を超えないことから、当第1四半期連結会計期間においては貸借対照表のみを連結しており、当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結損益計算書に被取得企業の業績は含まれておりません。

3. 被取得企業の取得原価および対価の種類ごとの内訳

取得の対価 企業結合日に交付した株式会社FWの普通株式の時価	238,906千円
取得原価	238,906千円

4. 株式の種類別の交換比率およびその算定方法

(1) 株式の種類別の交換比率

株式会社FWの普通株式1株に対して、当社の普通株式1,384株を割当て交付いたしました。

(2) 交付する株式数

当社の普通株式：379,216株

(3) 株式交付比率の算定方法

当社は、本株式交付比率の検討にあたり、その公平性・妥当性を確保するため、独立した第三者算定機関として株式会社ブルータス・コンサルティング（以下、「ブルータス」といいます。）を選定し、株式交付比率の算定を依頼いたしました。当社は、両社の財務状況、将来の見通し、当社の株価動向等の要因、およびブルータスから提出を受けた株式交付比率の算定結果を総合的に勘案し、慎重に協議を重ねた結果、本株式交付比率がそれぞれの株主の利益を損ねるものではなく妥当であるとの判断に至ったため、本株式交付比率により本株式交付を行うことにつき、2026年5月13日に開催された当社の取締役会決議に基づき、両社間で本株式交付契約を同日付にて締結いたしました。

5. 主要な取得関連費用の内容および金額

弁護士・アドバイザー等に対する報酬・手数料等81,351千円

6. 発生するのれんの金額、発生原因、償却方法および償却期間

(1) 発生したのれんの金額

2,998,185千円

なお、上記の金額は企業結合日以後、決算日までの期間が短く、企業結合日時点の識別可能資産及び負債の特定並びに時価の見積りが未了であるため、取得原価の配分が完了しておらず、暫定的に算定された金額であります。

(2) 発生原因

今後の事業展開によって期待される将来の超過収益力であります。

(3) 償却方法及び償却期間

投資効果の発現する期間にわたって均等償却する予定です。なお、償却期間については算定中です。

7. 企業結合日に受け入れる資産および引き受ける負債の額ならびにその主な内訳

流動資産	913,008千円
固定資産	1,429,729
資産合計	2,342,738
流動負債	988,546
固定負債	783,038
負債合計	1,771,585

(セグメント情報等の注記)

Ⅰ 前第1四半期連結累計期間(自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
	マルチリンガル CRM事業	セールスアウト ソーシング事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	364,192	157,810	522,002	—	522,002
セグメント間の内部売上高 又は振替高	7,846	—	7,846	△7,846	—
計	372,039	157,810	529,849	△7,846	522,002
セグメント利益	17,242	29,317	46,559	△106,677	△60,117

(注) 1. セグメント利益の調整額△106,677千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に
管理部門等に係る費用であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

Ⅱ 当第1四半期連結累計期間(自 2026年4月1日 至 2026年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
	マルチリンガル CRM事業	セールスアウト ソーシング事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	615,995	90,176	706,172	—	706,172
セグメント間の内部売上高 又は振替高	7,920	—	7,920	△7,920	—
計	623,915	90,176	714,092	△7,920	706,172
セグメント利益	117,706	23,296	141,002	△107,096	33,906

(注) 1. セグメント利益の調整額△107,096千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に
管理部門等に係る費用であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

当第1四半期連結累計期間において、株式会社FWの株式を取得したことから、同社を連結の範囲に含めた
ことに伴い、のれんが2,998,185千円発生しております。なお、のれんの金額は当第1四半期連結会計期間
末において取得原価の配分が完了していないため、暫定的に算定された金額であり、報告セグメントに配分
していません。